

第2話 篠ちゃん、麗さん、めぐ、ミーコ日光へ行く の巻

『9時半に東京駅の東北新幹線ホーム』という大雑把な約束に、それぞれ不安を覚えていたにも関わらず、私が少々遅れただけで（！）合流に成功。

新幹線の車中、携帯電話の必要性や便利さを、セールスマン顔負けに売り込む、篠ちゃんと麗さん、心細い思いをさせてしまって、ごめんなさいね。そうです、私は皆に心配や迷惑をかけつつ、未だに携帯を持っていないのです。連絡のつかない人間がいるというのは、皆が不便なのです。持たない気楽さ捨てがたいのですが、買ってもらうかな。

さて新幹線は乗り過ごしたら大ごとですから、おしゃべりに花を咲かせつつ慎重に駅名に、聞き耳を立てていました。宇都宮はちょっと曇り空ですが、気にしません。餃子の像（女の子が自分より大きな餃子に寄り添っています、変ですよ）でめぐさんと合流、早速そばに居た、現場監督らしき仕事中の若者を捕まえて、4人の写真を撮ってもらいました。おばさんにやさしい若者でよかった。皆のカメラで撮るといふ面倒な頼みを聞いてくれたのでした。

まずは腹ごしらえ、杉並木の美しい日光街道を走ります。めぐさんのご主人はガソリンをたっぷり入れて、洗車した（室内までぴかぴか）車を私たちのために用意してくださいました。瀟洒な洋館の見事なバラのお庭を拝見して、いよいよお昼ご飯。『月山』という、まるで旅館か料亭かというような、堂々たる豆腐料理のお店です。二段の手桶に盛り付けられた、美しい豆腐料理に舌鼓をうって、ご飯は一晩水に浸してから炒った大豆と一緒に炊き上げた珍しい大豆ご飯でした。もちろん全員お代わり。いずれ「ミーコの食卓」で挑戦したいと思っています。デザートはお汁粉で、満足この上ありませんでした。ここでも着物姿のお店の方に写真撮影をお願いしてそれぞれのカメラに思い出を収めたのです。ところが帰ってから気がついたのですが、私のカメラはこの時すでにバッテリー切れで死んでいました。この後も気づかずに写真を撮りつづける自分が哀れでなりません。バッテリー切れと出るくせにスイッチが入るので回復するのだと思い込んでいました。機械音痴にも程があるというものです。



餃子の像（宇都宮駅）の前で記念撮影

めぐさんの提案で、お昼や拝観料などこれからの出費を一人に管理してもらうことになりました。一番意識がはっきりしていそうな麗さんが会計係になりましたが、実はこれが結構大変、行く先々で先回りして拝観料を払い、何か食べたいというたびに、出番となります。また良く食べます私たち。

続く